

歌詞を中心とした詩教育の可能性 (B班)

- 02 寺本風有香 日置智也 森双葉
- 03 荒尾佳澄 櫻田優太 高藤友菜
- 04 伊藤舞 下賀海弘

○テーマ設定の目的

現代の国語教育においては、評論文・物語文の読解に重きが置かれ、扱われることの少ない詩に対する生徒の苦手意識が指摘されている。その原因として「詩と出会う場が少ない」ことが挙げられているが、学習者及び教師の身近にある詩として「歌詞」が挙げられる。より親しみやすく読解の糸口を見出しやすい歌詞を詩教材と見立て、より楽しく・深く学びを展開することをねらった教育活動を考えることを目指し、本テーマを設定した。

○各回の活動内容

第1回 (歌詞の鑑賞会)

第1回はメンバーが好きな歌詞について、作詞者の情報や自分のおすすめポイントなどを共有し、歌詞を考察する視点を考える活動を行った。歌詞の中にストーリー性を見出したり、歌詞が心情に訴えかける表現を考察したりと、多種多様なプレゼンが展開された。大きな歌詞のストーリーに着目したもの、一つ一つの細かな表現の意味を考えようとするものなど、各個人が歌詞を考えるポイントを共有することで、今後歌詞を教材化する上で役立てることができる観点を全体で共有することができた。

〈扱った楽曲〉

| | |
|-----------------------------|---------------------|
| 眼鏡の男の子／BEYOOOOONDS (寺本) | 卒業写真／荒井由実 (日置) |
| 我逢人／Mrs.GREEN APPLE (森) | 木綿のハンカチーフ／太田裕美 (荒尾) |
| CROSS ROAD／Mr.Children (櫻田) | LOVE 涙色／松浦亜弥 (高藤) |
| 再会／はるまきごはん (伊藤) | orion／米津玄師 (下賀) |

第2回 (歌詞の教材開発、詩教育に関する講話)

第2回の活動の前に、山元先生から詩教育に関する講話をいただいた。詩教育の歴史や「詩」とはそもそも何かという概念から考え、詩教育のあり方や留意すべきことを根本から考えることにつながったように思う。その後の活動では、各自が調べてきた詩教材の実践例と、教材化できそうな歌詞・教材化のポイントを共有した。

詩教材の実践例は、音読→読解→創作といったメジャーな展開のものから、題材の詩を穴埋め形式で考え読解を促すものなど、工夫された多様な実践が多く見られた。歌詞の教材化構想では自分の好きな歌詞に読解の観点を付け加え、単元の中で学習者に何を考えさせる

か、どのような点に注目させるかといった教材化の観点を共有した。それぞれの歌詞の良い点や教材化のアイデアを聞いて各自からフィードバックも受けることができ、第3回の授業構想に向けた準備として有意義な時間となった。

〈扱った楽曲〉

| | |
|-------------------------|-----------------|
| 償い／さだまさし（寺本） | 夢の中へ／井上陽水（日置） |
| 車輪の唄／BUMP OF CHICKEN（森） | なごり雪／イルカ（荒尾） |
| サウダージ／ポルノグラフィティ（櫻田） | ストロー／aiko（高藤） |
| 三日月／絢香（伊藤） | メトロノーム／米津玄師（下賀） |

第3回（歌詞を用いた授業構想）

最終回では、楽曲の一つに絞りグループ全体で一つの学習指導案を構想した。松本隆「木綿のハンカチーフ」を題材とし、歌詞の意味や人物像について読解・考察するとともに、教科書教材に採用される現代詩の読みが身の回りの歌詞にも通ずることに気づき、詩を身近なものとして捉えることのできるような単元案を考えることができた。単元の目標や教材観・指導観、指導計画の立て方など基本的な指導案を作成することは、1,2年生にとっても今後生きる経験となったのではないかと思う。3回の活動を通して、歌詞を読解し考察する観点の発見、実際の計画という流れを踏むことができ、歌詞を題材とした詩教育の可能性について、考えを深めることにつながったのではないだろうか。

○参加者の声

・教科書に載っているような既に価値が定まっているものと違い、歌詞は多種多様で、その中にどのようなよさ・学びの種を認めていくのが難しくも、面白くもあった。表現技法など教科書と同様のよさが当てはまる詩もあれば、同じ物差しで見ることが果たして本当に作品の理解になっているのか、悩むことも多々あった。文学的よさと大衆文化のよさは別物なのか、深いところではつながっているのか疑問に思った。

・「詩」の教育は内容的に曖昧な部分も多く、学習者にとっても指導者にとっても少し抵抗があるもののように感じていたが、今回の研究を通してどうすれば生徒にとって親しみやすい存在となるのかを検討することが出来た。また、普段聞いている楽曲の歌詞を改めてしっかりと聞き返すことで言葉や表現のおもしろさに気づくことが出来た。

歌詞を題材として詩教育を構想することで、教科書教材との差異やそれぞれの特長、自分が指導者としてどのように振る舞うべきかといった点で考えが深められたようであった。課題も多く残るが、メンバーの取り組みや山元先生のご協力のおかげで、充実した活動になったように思う。お疲れ様でした。

代表：02 森双葉